

平成28年度 第3回 会員・家族研修会 開催

平成28年度第3回会員、家族研修会は平成29年3月5日(日)午後3時から午後5時まで、滋賀県立男女共同参画センター1階視聴覚で開催されました。川崎事務局長の開会の言葉に続き西浦会長より「この研修会は断酒の意識付けに必要なものであり、参加受講される事が断酒実行の糧である。北

見副会長の体験発表、次に大阪小谷クリニック医療福祉相談室長、精神保健福祉士山本哲也ソーシャルワーカーの講演で勉強したい」と挨拶がありました。

はじめに、副会長 北見敏子氏の体験談発表がありました。子ども達に励まされ、小杉クリニックを受診しました。「北見さんよう来てくれたね、よう辛抱したね」とやさしく声をかけて頂いた。毎日のように通院、点滴をするなか、断酒会へ先輩に勧められて出席しました。「よく来たね」と声をかけて下さり。例会通いが始まった。小学生の娘が「行って来て」と後押しをして呉れました。私は人のせいにして飲んできた。夫の暴力がひどいからといって酒を飲んでいた。子ども達には父親なのに、親2人が子どもたちを悲しませてきた。大阪から彦根に帰って来て7年経った頃、警察から滋賀で別れた元夫が亡くなったと連絡があった。息子は小さい頃に別れた父親を「可哀想や葬式してあげよう」と言ってくれた。私のお酒で子どもたちに悲しい思いをさせてきた。例会に通い酒を止めて行こうと思いますと語られた。

この後、小谷クリニック医療福祉相談室長、精神保健福祉士山本哲也ソーシャルワーカーによる「アルコール依存様と家族について」と題し講演があった。

アルコール依存症は家族が巻き込まれる — 家族ぐるみの病気 —

本人(酒害者)はアルコール(身体)と感情(感じ方、考え方)と人間関係(環境)のコントロール障害で、これらは相互につながっている。酒害者は、毎月曜日に休むので「月曜日の男」とあだ名され、休暇の電話を入れると→電話の後ろで上司が「一生休んどけ!」→本人は「バカにしやがって」→そしてまた「酒を飲む」、このように自分のことが見えていない。自分の感情だけで思考が働かない。悪循環を繰り返し、怒る元気、思考もマヒし、どうなってもいいわ、考えないように感じないようにするために飲んでいる。人間関係が先に潰れ、社会的に抹殺される、ついには身体的に死ぬ。心が死ぬ→社会的に死ぬ→体が死ぬ(アルコール依存症は3度死ぬ)ねじまきの渦をねじ切るように死んでいく。この様な経過の中で家族は巻き込まれて行く。家族は本来巻き



込まれるもの、影響を受けない方が不自然である。アルコール依存症の心理そしてその家族の気持ちの持ち方について講演頂いた。質疑応答の後、松岡会計の閉会のあいさつで終了しました。参加者は62名でした。(記・小林生一)